

デンマークにおける成人教育者の質の保障と訓練

—自由成人教育における成人教育者の採用と訓練に焦点をあてて—

佐 藤 裕 紀
(早稲田大学大学院生)

はじめに

本稿は、デンマークにおける成人教育、特に自由成人教育における成人教育者の質の保障と力量形成のための訓練の実態を明らかにすることを目的としている。

1990年代後半より欧州連合 (European Union 以後 EU) は「知のヨーロッパ」の構築を目指し、生涯学習の概念の普及に努めてきた。2000年の欧州首脳会議で打ち出されたリスボン戦略 (Lisbon Strategy) では、世界で最も経済的競争力の高いダイナミックな知識基盤型経済を目指し、生涯学習はその有力な手段とされた⁽¹⁾。そうした生涯学習への関心の高まりと共に、成人教育にも大きな関心が払われるようになってきており、2000年の「生涯学習のメモランダム」以降、例えば2007年には、教員・指導員の養成・採用・研修:「教師教育の質改善に関する欧州理事会の勧告⁽²⁾」と教育者の質に関する実施指針ガイドラインを発行している。また EU は、欧州における成人教育者の専門性に関する研究にも多くの支援を行っており、成人教育者の質と訓練は、主要なテーマの1つとなっている⁽³⁾。

我が国の社会教育・生涯学習関係職員においても、公共施設の指定管理者

制度の導入が進められる中で、施設機能の弱体化や公平性の担保の崩壊、専門性の低下等の課題も指摘されており⁽⁴⁾、専門性の認知度、理解度の低さと共に、どのような具体的な専門的能力が求められているのか明示されていない点が課題であるという⁽⁵⁾。

では、デンマークにおける成人教育者の質の保障や訓練に関して着目する意義はどこにあるのか。生涯学習という文脈でデンマークを捉えた際に、いくつかの興味深い統計調査の結果がある。ここではまず、2008年1月に作成された欧州生涯学習指数（European Lifelong Learning Index: ELLI Index 2010）について示す⁽⁶⁾。

これは、UNESCO21世紀教育国際委員会（1996）『学習：秘められた宝（Learning the Treasure Within）』（通称「ドロール・レポート」）の提唱する学習の4本柱「知ることを学ぶ」（Learning to KNOW）、「行動することを学ぶ」（Learnig to DO）、「共に生きることを学ぶ」（Learning to LIVE TOGETHER）、「人間として生きることを学ぶ」（Learning to BE）に基づいて、幼児教育からのフォーマル教育、職業に関連した学習、社会的結束と結びついた学習、そして個人の成長のための領域を設定し作成された指標である。さらに学習の経済的、社会的効果も統計的に分析しEU加盟国をマッピングしたものである⁽⁷⁾。

その結果、デンマークは「行動をすることを学ぶ」の領域では2位であったものの、それ以外の全領域で首位であり、総合でも1位となっている。

これ以外にも、国際的な生涯学習に関する複数の調査を分析すると、デンマークの成人は欧州で最もアクティブであると各種調査は示している⁽⁸⁾。例えばEUROSTATの2011年分の調査では、デンマークの25歳から64歳までの31.6%の人々が過去1年間に何らかの成人の学習に参加していることを示している⁽⁹⁾。ちなみにEUの平均は9.0%であり、デンマークは実に3倍以上であることがわかる。

以上から明らかなように、現代においてデンマークは、生涯学習が最も活発に行われている国の1つである。しかし、これはデンマークの成人教育の歴史と学習文化の土壌を考えれば、さほど驚くことではない。

デンマークは17世紀からの成人教育の伝統と文化を持つ国である。特に19世紀半ば以降に農村部から始まり、社会変革と文化的闘争に根ざした全寮制

の成人教育機関フォルケホイスコーレ (Folkehøjskole) は、デンマークの歴史を論じる上で外すことができない存在である。そしてその教育思想は、ニコライ・フレデリクス・グルントヴィ (N.F.S. Grundtvig) (1783-1872年) と、クリステン・コル (Christen Kold) (1816-1870年) の教育思想と実践が起源とされ、教育理論や実践にも大きな影響を与えた⁽¹⁰⁾。

グルントヴィとフォルケホイスコーレはデンマーク国内だけでなく、北欧諸国をはじめ、東欧や北米、またアフリカやアジアにおける成人教育や民衆教育に大きな影響を与えている⁽¹¹⁾。そして日本の社会教育にも影響を与えており、例えば宇野豪『国民高等学校運動の研究——一つの近代日本農村青年教育運動史』では、日本の農村部で国民高等学校として広がった過程が分析されている⁽¹²⁾。また、戦後に公民館を構想する際には、寺中作雄が『公民館の建設——新しい町村の文化施設』においてフォルケホイスコーレを紹介している⁽¹³⁾。

そして、グルントヴィは過去の遺産ではない。現在でもデンマーク国内には、フォルケホイスコーレに起源を持つ多様な成人教育（成人職業訓練と識字等を行う普通成人教育と区別され自由成人教育と呼ばれる）の場が展開されている。またデンマークの首都であるコペンハーゲン (København) の市庁舎すぐ横には、オーフス (Århus) 大学付属のグルントヴィセンター (Grundtvig Centeret) やグルントヴィ図書館 (Grundtvig bibliotek) があり⁽¹⁴⁾、グルントヴィセンターは毎年最新の研究成果を刊行し、グルントヴィ図書館は世界中の研究者や一般の人々に利用されている。さらに、EU は知識基盤型社会にむけて欧州域内での生涯学習ネットワークを構築することを目的として、各教育段階に応じた「生涯学習プログラム」(Lifelong Learning Programme) を実施しているが、その成人教育段階のプログラム名称は GRUNDTVIG である⁽¹⁵⁾。

成人教育及び生涯学習に関する伝統と、日本も含めた国際社会への影響を持ち、現在でも活発な生涯学習が行われているデンマークにおける、成人教育者の質の保障や訓練の現状を明らかにすることは、我が国における成人教育者の質の保障および力量形成について考察する上で大きな意義があるだろう。

1. デンマークにおける先行研究の動向

デンマークでの成人教育者の質や訓練に関する研究としては、1999年に Danneskiold Samsøe がデンマークで最初の成人教育者の訓練や質に関して調査を行っている⁽¹⁶⁾。しかしその調査では職業訓練の成人教育者は含まれておらず、さらにデンマークでは2000年以降に多くの成人教育改革が実行され変化しており、現状を踏まえる必要性がある。

近年のデンマークにおける成人教育者の質や訓練に関する代表的な研究としては、Milana M (2008)⁽¹⁷⁾や Milana M & Larson A (2009)⁽¹⁸⁾及び Milana M & Larson A (2011)⁽¹⁹⁾の一連の研究が挙げられる。これらの先行研究では、デンマーク政府の近年の生涯学習・成人教育政策を分析した上で、現在のデンマークにおける成人教育者を対象とした訓練プログラムの有無とその内容、そして成人教育者の雇用、待遇の状況、専門職としての力量形成の過程と方法について分析を行っている⁽²⁰⁾。

Milana M & Larson A (2009) によれば、近年の EU 及びデンマークの生涯学習政策では、成人教育者の質の重要性に関する言及が見られるものの、具体的な質の内容、成人教育者の質を向上させる知識や技能の習得方法は明確でないと指摘している⁽²¹⁾。

また、デンマークでの成人教育者を対象とした訓練プログラムに関して、成人職業訓練や普通成人教育に携わる成人教育者対象のプログラム数は豊富にある一方で、多数が短期間の、また既に成人教育者として実務を行っている者を対象とした訓練プログラムであり、初期教育、つまり今後成人教育者となることを希望する者が学習する機会が少ないことを問題視している⁽²²⁾。

しかし、一連の研究では、成人教育の中で、特に普通成人教育や職業訓練といった分野に焦点が当てられ、先に述べたフォルケホイスコーレを初めとした自由成人教育についての分析は、「雇用に関して非正規雇用が多く法的保護が脆弱である」といった一部を除けば非常に少ない。そもそも先行研究で対象としている成人教育者は、普通成人教育や成人職業訓練の分野で、公的機関または民間企業から提供されるプログラムに従事する成人教育者を対象としており、ボランティアセクターや、自由成人教育は主な研究対象とはなっ

ていない。

自由成人教育の成人教育者の質に一部関わる研究としては、Steen Elsborg & Steen Høyruppedersen (2010) の研究が挙げられる。この研究では、自由成人教育において、社会的な周縁に追いやられた人々、例えば失業者、精神的に疾病を抱えている人々を効果的にエンパワーメントし、状況を改善させる学習支援の12の要素を明らかにしている⁽²³⁾。

しかし、成人職業訓練及び普通成人教育でもない自由成人教育者に求められている質の保障や訓練の機会に関しては、未だ十分に明らかにされていない。

そこで本研究では、先行研究や各種政府の報告書の内容を踏まえながら、まずデンマークの成人教育制度について明らかにし、次いで成人職業訓練と普通成人教育の成人教育者訓練プログラムの内容を示す。そして自由成人教育の各学校群の教員の採用における学歴や背景を分析し、最後に各学校群が教員の力量形成を図るために、どのような機会を設けているかを明らかにする。

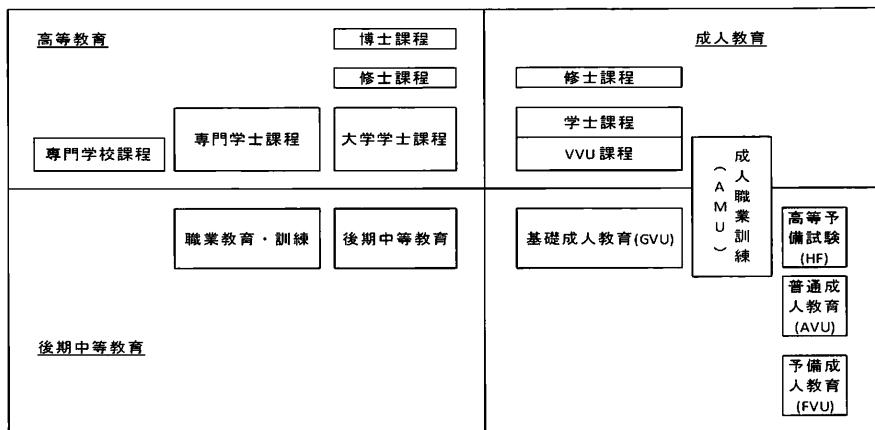
2. デンマークの成人教育制度の概要

デンマークの成人教育者の質に関して考察するにあたって、まずデンマークの成人教育制度がどのように構成されているのかを理解する必要がある。図1は成人教育と後期中等教育以後の普通教育に焦点を当てたデンマークの教育制度である⁽²⁴⁾。

この教育制度図では、下部が基礎段階であり、上部に行くほど高等教育段階であることを示している。左側の普通教育制度と、右側の成人教育制度が各教育段階において、比較可能な形で制度上位づけられている。図1が示しているように、デンマークの成人教育は基礎段階から大学院段階まで整備されていることが特徴の1つと言える。

ここではまず、デンマークの成人教育制度の形成過程を簡潔に述べる。まず、デンマークの成人教育の起源はフォルケホイスコーレを初めとする自由成人教育にある。1844年に最初のフォルケホイスコーレが設立されると、そ

図 1. デンマークの成人教育制度と普通教育制度との対応図



出典: デンマーク教育省のウェブサイトより取得したものを筆者一部修正。

(<http://uvm.dk/Uddannelser-og-dagtilbud/Paa-tvaers-af-uddannelserne/Overblik-over-det-danske-uddannelsessystem/Voksen-og-efteruddannelsessystemet>)

の後1851年に政府からフォルケホイスコーレに助成金が拠出されるようになった⁽²⁵⁾。これがデンマークにおける政府による最初の成人教育への財政支援であった⁽²⁶⁾。さらに19世紀初頭に、夕方以降に学習するイブニングクラスが主に地方の農村部に展開されるようになる⁽²⁷⁾。この学習活動は都市部でも拡大し、後に労働者運動によって組織化されるようになっていく。Søren E (2006)によれば、20世紀段階においては、学習の機会の提供はボランティアセクター等で主に担われていたとしている。1915年の段階において、7年間の義務教育後もフォーマルな教育に参加している若者はほとんどおらず、農業経済の中、雇用主の下で日々の労働に従事していた。一部の若者は、3年間の後期中等教育を受けていたが、大多数の若者は、フォーマル教育ではなく、フォルケホイスコーレやイブニングクラス等に参加していた⁽²⁸⁾。

1933年には、若年層の失業率の上昇を食い止めるために、社会福祉改革の一環として、18歳から22歳の失業している若者を対象とした最初の職業訓練プログラムが実施された⁽²⁹⁾。そうして1960年に、最初の職業訓練の法律が制定されると、主に低技能労働者へ短期の職業訓練コースから開始され、1966年に技能労働者にも職業訓練の機会が広がった。1969年に余暇教育法が制定

されると、より多様な成人の学習活動が形成されるようになった⁽³⁰⁾。また主に基礎的な読み書き計算を中心とした、前期中等教育段階の普通成人教育センターも開始され、1989年には、この普通成人教育センターは、普通教育制度での前期中等教育段階とは異なる独自のシラバスを使用することができるようになった⁽³¹⁾。

その後、1990年の「オープン教育法」により、職業大学や高等教育機関での成人を対象とした職業訓練のパートタイムコースや単科コースが開講された。さらに2000年以降、職業訓練と継続教育の改革が実行された。この職業訓練改革において、①低技能段階から大学修了段階まで、全ての成人に全ての段階の成人教育と継続教育を提供、②教育段階の低い人々への機会を改善、③資源の有効活用という3つの目的の下、成人教育の各コース、プログラムは、普通教育制度と比較可能なように制度上位置づけられた⁽³²⁾。そうして現在は、職業訓練、普通成人教育が各教育段階に応じて整備され、またフォルクヘイスコースレを初めとした多様な資格や認証を行わない学習活動も自由成人教育として位置づけられている⁽³³⁾。

次いで、各成人教育がどのようなプログラムで構成されているかを見てみたい。まず、普通成人教育から示すと、予備成人教育(FVU)は、2001年成人教育改革で生まれたプログラムであり⁽³⁴⁾、成人を対象とし、基礎的な文字の読み書きと計算の能力を向上させるプログラムである。2005年の統計では23,000名の参加者がおり、その内1,160名のフルタイム相当の参加者がいる⁽³⁵⁾。

また普通成人教育(AVU)は、普通教育制度においては前期中等教育である8学年から10学年のレベルに相当する内容を学習する。但し学習活動においては、より成人一人ひとりの関心に即した実践が行われ、彼らがより高い教育段階の学校に移行する機会を増加させることを目的としている⁽³⁶⁾。2005年には91,500名の参加者で、その内6,100名がフルタイム相当の参加者である。

そして高等予備試験(HIF)は、後期中等教育段階の知識を単科または分野ごとに提供し、高等教育への進学および労働市場への再参加を促進させることを目的としているプログラムである⁽³⁷⁾。2005年には91,500名の参加者がおり、その内6,100名のフルタイム相当の参加者がいる。

他には、身体的または精神的に障害を抱え、日々の生活において教育的な支援を必要とする人々のための教育、また失読症の人々を対象とした教育プ

ログラムがある⁽³⁸⁾。これらには、2004年段階で合計113,000名が参加している。最後に、移民、難民等デンマーク語を母語としない人々を対象とした第二言語としてのデンマーク語プログラムがあり、2005年で37,000名が参加している。以上が普通成人教育の構成である。

それでは、普通成人教育はどこで実施されているのか。成人教育センター（VUC）が主要な提供機関であるものの、それ以外にも自治体、民間企業、労働組合、専門職機関、刑務所等でも提供されている。

以上のように、普通成人教育は、目的、対象、プログラムの内容、提供者等は多様で差異がある。但し、普通成人教育には最終試験があり、修了後に社会で有用な公的な証明書を発行する点が共通した特徴である⁽³⁹⁾。

次いで、成人職業訓練プログラムの構成を見てみたい。成人職業訓練プログラムは、1960年代に元々は低技能または専門的資格を持っていない成人を対象として始まり、現在では6種類に大別できる。労働市場訓練（AMU）と成人職業教育訓練（VEUD）はアクティブな労働者の専門性を強化することを意図している。一方で、残りの4つのプログラムである基礎成人教育（GVU）、継続成人教育（VVU）、そして学士課程と修士課程は、基礎また継続教育を通じて、成人の個人的そして専門的な資質能力を向上させる機会を提供することを目的としている。各プログラムには、試験があり、修了時には、普通教育制度の同程度の各教育段階の資格証明が発行される⁽⁴⁰⁾。

では成人職業訓練プログラムはどこで提供されるのか。修士課程は総合大学（長期）で実施され、2006年調査で7,400名の参加者がおり、その内1,600名がフルタイム相当であった。学士課程は専門課程大学（中期）で提供され、9,800名のフルタイム相当の参加者であった。継続成人教育は専門アカデミー（短期）または専門課程大学（中期）で提供され2006年で71,000名の参加者で、その内6,700名がフルタイム相当である。基礎成人教育は後期中等教育段階の職業教育・訓練学校で提供され、2007年調査で164名のフルタイム相当の参加者がいる。労働市場訓練は労働市場訓練センター等で、また成人職業教育訓練と労働市場訓練は2010年からは職業教育訓練カレッジ（VEU センター）でも提供されており、（2006年段階の統計では成人職業教育訓練の数値のみだが）、617,000名の参加者がおり、その内9,180名がフルタイム相当の参加者であった。

3. 自由成人教育の学校群の差異と共通性

最後に、自由成人教育について見ていきたい。自由成人教育⁽⁴¹⁾では、非常に多様な機関での様々な学習活動が展開されている。それらは哲学者・詩人のグルントヴィと、教員のコルの教育思想とフォルケホイスコーレの実践が起源とされる。

Milana, M & Sørensen, T (2009) によれば、フォルケホイスコーレの歴史は3つの期間に区分できると言う⁽⁴²⁾。1つ目は、1844年にルディング (Rødning) に最初のフォルケホイスコーレが設立されてから、1864年にドイツに敗戦し国土であったスレースヴィ (Slesvig) 地域を喪失した時期である。この間、1849年にデンマークの自由憲法が制定され、1851年にはフォルケホイスコーレへの財政支援のための法律が制定された。この間、絶対王政から立憲君主制への移行と共に、人口の大多数であった農民を民主主義社会を構成する「市民」へ、国家を構成する国民へと変える必要があった。そのため、フォルケホイスコーレでは人々のつながりを強めるため、デンマーク的な歴史や文化、言語が重視され、書かれた書物の言葉ではなく、対話や討議、人々の語る生きた言葉での相互作用が活用された。

2つ目は、1864年から1968年の間である。この間、特にドイツとの緊張関係の中で、デンマークのナショナリズムやデンマーク的なものへの隆盛が起き、フォルケホイスコーレはその数を飛躍的に増加させていった。当初は民族的な側面が強調されていたが、第二次世界大戦後、産業社会への移行の中で、ハルコック (Hal koch) が文化的、民族的な側面よりも政治的な側面を強調し、政治的な市民性を育む場としてフォルケホイスコーレを捉えなおした⁽⁴³⁾。

さらに1960年代には、カウンターカルチャーの影響、そして若者の高い失業問題から左翼的な思想の影響を受け、フォルケホイスコーレの役割への議論が起り、実践的で社会に変化を与える学習活動や発展途上国へワークキャンプに行くこと等の活動が展開されるようになる。この頃は、社会的な側面が強調された点が特徴である⁽⁴⁴⁾。

そして近年では、社会的な側面よりも「個人の発達」や「教養」といった側面が強い傾向がある。以前は農村部の若者らが冬の間数ヶ月学習すること

が主流であったが、1960年代頃には多くの都市部の教養のある人々も知的好奇心を満たすために、コースに参加するようになり、短期コースも多く設置されるようになった。現在の参加者の多くは20代前後の若者と退職した高齢者らであり、全国に約70あるフォルケホイスコーレに毎年約50,000名が参加している⁽⁴⁵⁾。

また、表1に示したように、フォルケホイスコーレ以外にも例えば、失業者や移民を対象にした非全寮制の学校（Daghøjskole）、大学が一般市民や地域に授業を開放する大学拡張コース（Folkeuniversitet）、成人教育協会の提供するダンスやアート・語学等の講座（Aftenskole）、各種ボランティア活動や市民の自発的な学習サークルといった活動等が存在する⁽⁴⁶⁾。

表1. デンマークの自由成人教育と関連教育機関

学校名	学校数	運営費用の拠出先	参加費	参加者数
フォルケホイスコーレ(Folkehøjskole)	76	政府	有料	50,000
自由職業学校(Friehøgskole)	15	政府	有料	885
イブニングスクール(Aftenskole)	5/725	自治体	有料	800,000+
大学拡張コース(Folkeuniversitet)	4/96	政府	有料	95,000
生産学校(Produktionsskole)	78	政府	無料	6639
デイホイスコーレ(Daghøjskole)	25	自治体	有料/無料	2,000
エフタスコーレ(Efterskole)	262	政府	有料	28,055
青年学校(Ungdomsskole)	102	自治体	有料/無料	168,061

出典: Den ikke-formelle voksenuddanner BAEA workshop kbh.17.9.2010の資料を基に筆者修正。

そして自由成人教育にその起源があるとされる学校群として、義務教育の主に8、9、10年生の希望者が通う全寮制のエフタスコーレ（Efterskole）、義務教育段階または修了後に教育や就労からドロップアウトした若者に再チャレンジの機会を提供する生産学校（Produktionsskole）、放課後の余暇活動と共に、10年生向けのフルタイム全日制コースやデンマーク語を母語としない生徒のためのデンマーク語コースも提供する青年学校（Ungdomsskole）が挙げられる。

自由成人教育の共通点は、その根底にある教育思想、および歴史的背景に19世紀半ばに設立されたフォルケホイスコーレに代表されるグルントヴィヤコルの思想的影響を受けている点である。そこでは対話による相互作用や全人的な学習が重んじられ、試験のための学習や資格の取得を目的とした専門

的な職業訓練は原則的に重んじられない。そして自由成人教育以外は、カリキュラム、そして指導方法を政府や地方自治体が定めていることに対して、自由成人教育はそれらの拘束を原則的に受けない。そして学校に入るためには年齢以外の特別な資格は原則的に必要なく、さらにそれらの学校を修了しても資格や認証は発行されない。

これらの学校は Folketoplysningenslov (Folkeoplysningsloven) や、Folkehøjskole, Efterskole, Husholdningsskole og Håndarbejdsskole で制度的に規定されている。各学校の概要は『早稲田大学大学院教育学研究科紀要別冊』19号-2に所収されている拙稿「デンマークの生涯学習戦略に関する一考察」(佐藤2012)において説明をしており、また今後の研究で個別に詳細を分析していくため、本稿では名称を示すことに留めたい。

以上のように、デンマークには非常に多様な成人教育の機会が存在しており、それぞれが普通成人教育、成人職業訓練、自由成人教育として区分されている。

4. デンマークの成人教育者のための訓練コース

前節では、デンマークの成人教育の概要を、普通成人教育、成人職業訓練、そして自由成人教育とみてきた。本節では、それら多様な成人教育機関における成人教育者の訓練の機会について明らかにする。

図2はデンマークにおける成人教育者のための成人教育プログラムの一覧である。各プログラムの目的、対象、履修するための条件、制度上の位置づけ提供機関、プログラム内容等の詳細は、Milana M & Larson A (2008) に詳しく記載されているので、本稿では、先行研究を踏まえたうえで、デンマークでの成人教育者の成人教育・訓練に関する特徴を述べるに留めたい。

デンマークの成人教育者の訓練の特徴としては以下が挙げられる。まず、短期から長期に至るまで非常に多様なプログラムが設置されている点である。まず、学歴のあまりない個人は、成人教育における教育基礎 (AVG) のコー

図 2. 成人教育者のための成人教育・訓練プログラム一覧

成人教育制度					教育制度	
					第二言語としてのデンマーク語(1年間)	修士課程(1年間)
					教育学士課程(1年間)	
継続成人教育(VOU)(5週間)	失語症支援の教員プログラム(8週間)	職業訓練系教員プログラム(18週間)	成人教育者プログラム(1年間)	アカデミー専門プログラム(1年間)		
成人教育における基礎教育 (Avg) (3.4週間)						

出典: Milana M & Larson A(2009) *Becoming Adult educators in the Nordic-Baltic region national Report:Denmark* より筆者一部修正。

スに参加することができる。また、既に2年以上の成人教育者としての実務経験があるが、短期高等教育を修了していない個人は、アカデミー専門プログラムに参加することができる。そして既に短期高等教育を修了しており、最低2年間の成人教育者としての実務経験のある個人は、中期また長期高等教育段階のプログラムに参加することができる。

課題としては、既に成人教育者としての経験が2年以上ある実務者向けのコースが多く、これまでに成人教育者としての経験はないが、知識や技能を身につけたいという場合に参加できるプログラムが非常に少ないという点である。またデンマークにおいては、成人教育者の専門性や質は、実践を通じて時間と経験と共に高まっていくという考え方があり、事前に専門的な知識や技量を身につけるといふ制度設計はなされていないと結論づけている⁽⁴⁷⁾。

また、普通成人教育と成人職業訓練の各機関での教員の雇用において、どのような要件が規定されているのかを確認しておきたい。

普通成人教育においては、失語症の成人を対象とした成人教育と第二言語としてのデンマーク語の教員は、各科目の知識だけでなく、それぞれ特別な教育課程を修了していることが求められている。普通成人教育(AVU)では初等・中等用の教員養成プログラムを修了していること、高等予備試験(HF)の教員は修士以上の学位と後期中等教育の教員用プログラムを修了していることが求められている。但し予備成人教育(FVU)では特に何も必要な要件

はない⁽¹⁸⁾。

成人職業訓練では、その担当する分野・科目に関する資格とその分野での実務経験が専門レベルに応じて2年以上から5年以上求められる⁽¹⁹⁾。成人職業訓練の教員には、普通成人教育のような教育に関する資格や免許は求められていない。普通成人教育の機関の教員数は約1,000名であり成人職業訓練の教員は約500名であるが、自由成人教育に関しては不明であるとしている⁽⁵⁰⁾。

5. 自由成人教育における成人教育者の雇用と訓練

前節で、デンマークにおける特に普通成人教育と職業訓練教育に関わる成人教育者者の訓練の機会および雇用の要件に関して示してきた。それでは、デンマークの自由成人教育では、どのように成人教育者の雇用や力量形成、訓練を行っているのか。

制度的には、フォルケホイスコーレを初めとして自由成人教育の機関では、教員になる際に資格や教員免許は一切必要とされない。このことは、多様な教育、職業的な背景を持つ人々が教員となる可能性を保障し、多彩で豊かな実践が行われる可能性を意味している。その一方で、他者に対する教育的な活動経験や知識を全く持たない個人も採用されうることも意味する。それでは、各学校群において、実際にはどのような背景、学歴を持った人々が採用されているのだろうか。

また、もし自由成人教育の各学校群に、その理念、目的、実践において特徴があるとするならば、その特徴をどのように共有し、知識や技能の向上に努めているのか。そしてどのように実践における質の保障を行っているのだろうか。前節に示したような成人教育のプログラムを、各学校群は有しているのだろうか。

5.1 自由成人教育における雇用と採用に際しての資格要求の実態

以上のような問いを明らかにする上で、2010年9月17日にデンマーク成人教育協会（Dansk Folkeoplysnings Samråd）が実施したワークショップの内容とその結果が手がかりになる。このワークショップでは、自由成人教育の各

学校群に関して精通している各学校の協会職員、校長や教員等にスタッフの採用や訓練に関してインタビューを行ったものである⁽⁵¹⁾。

第3節で示した表1は、このワークショップで対象とした学校群であり、一般的に自由成人教育と制度上に分類される、または自由成人教育に歴史上影響を受けており共通の特徴を有しているとされる学校群である。表2は、各学校群での教員の正規、非正規雇用の教員数を示したものである。また採用にあたっての資格や免許等の要件の有無を明らかにしている。

表2. 自由成人教育関連機関における教員の雇用状況

学校名	非正規雇用教員数	正規雇用教員数	採用にあたっての教育歴・資格の要求（制度上/実際）
フォルケホイスコーレ(Folkehøjskole)	800	600	No/Yes
自由職業学校(Frifagskole)	/	200	No/Yes
イブニングスクール(Aftenskole)	50,000	750	No/AGV
大学拡張コース(Folkeuniversitet)	450	/	Yes
生産学校(Produktionsskoler)	/	1,500	No
デイホイスコーレ(Daghøjskoler)	/	250	No
エフタスコーレ(Efterskoler)	6,500	4,000	Yes
青年学校(Ungdomsskole)	不明	不明	不明

出典: Den ikke-formelle voksenuddanner BAEA workshop kbh.17.9.2010の資料を基に筆者作成。

フォルケホイスコーレでは、正規雇用の教員数が600名であるのに対して、非正規雇用の教員数は800名と非正規雇用の教員の方が多くことがわかる。また採用にあたっては、制度上は学歴・教育歴といった資格要件はないとされながらも、実際に勤務している教員には一定の学歴、資格といった要求が存在していることを示している。

自由職業学校においては、非正規雇用の教員は基本的におらず正規雇用の教員で占められており、採用に関してはフォルケホイスコーレと同様に実際には一定の学歴、教育歴、資格といった要求がある。

イブニングスクールに関しては、正規雇用の教員は750名であるのに対して50,000名もの教員は非正規での雇用となっている。これはそもそもイブニングスクールの形態として、別の仕事や所属を持っている個人が、自分の持っている趣味や特技（例えば語学やダンス、音楽等）を生かして講師となり学習サークルを形成する傾向があり、結果として非正規の教員数が大多数を占めていることが予測される。なお、表中にある AVG とは、第4節で示した

成人教育における基礎教育を意味している。

大学拡張コースは450名の非正規雇用の教員と示されているが、これは大学拡張コースはあくまで大学の研究の知見を一般の人々にも提供することによってその本来の目的があるため、その教員は大学の教員や研究機関の研究者である。そのため正規雇用の教員はおらず非正規雇用という位置づけになるためである。

生産学校とデイホイスコーレはそれぞれ1,500名、250名と正規雇用の教員で基本的には占められており、採用にあたっての学歴、教育歴や資格といった要求は実際においても必要ないとされている。但し、生産学校は義務教育段階を修了後、またはその途中において学校からドロップアウトした若者や、特別な教育ニーズのある若者、精神的な疾病や薬物等の課題を抱えた若者も多く、専門的な知識や技能が要求される側面もあることが予測される。

デイホイスコーレに関しても、例えば首都であるコペンハーゲン市においてその約半数のデイホイスコーレは主に若者を対象としたアートや自己表現といった学習の場であるものの、残りの約半数のデイホイスコーレは、例えば移民の女性を対象にしデンマーク語の読み書きを中心とした学校、交通事故等で身体特に脳の一部に障害を抱え、そのリハビリテーションを兼ねた学校、失業中の人々が通う学校等、社会的な課題に対応した学校群も存在しており、これらの学校では専門的・学問的な知識が現場において必要とされることが予測される。

主に義務教育段階の高学年において一部の生徒たちが参加するエフタスコーレにおいては、正規雇用が4,000名、非正規雇用が6,500名であった。採用にあたっては、エフタスコーレは義務教育制度の内部に位置づけられており、制度上においても教員となるための資格要件が設定されている。

青年学校に関しては、分析したワークショップ資料においては一切記載がなく、そもそも協力者としても青年学校の関係者は参加していないため統計上は明確にはできない。但し、筆者の訪問した青年学校3校（放課後の余暇活動以外に、10年生向けのフルタイム全日制コースやデンマーク語を母語としない生徒のためのデンマーク語コースも提供する特別な青年学校）に関してのみ言及すると、実際に採用されている教員は教員免許を有している場合が多数派を占めているという傾向を把握している⁽⁵²⁾。

5.2 自由成人教育における教員の学歴、背景と訓練プログラムの内容

続いて、具体的な教員の学歴、背景そして各学校群が設置している訓練プログラムについて明らかにする。もし、各学校群が独自の理念、そして教育方法を（それは明文化されておらず長年の実践において堆積してきた文化であったとしても）持つとすれば、それをどのように教員間で共有し、技能を向上させているのか。また、仮にそれらの学校に関して特に知識のない新任の教員が赴任した際に、彼はどのようにして、また何を学習することでその学校群の実践に関わる知識や技能を習得していくのか。

表3では、上述したワークショップの結果をまとめた資料に基づき、自由成人教育の各学校群の教員の学歴、背景に関する傾向及び各学校群が設置している訓練プログラムの内容を示している。この資料だけで断定はできないが、傾向を把握する手がかりにはなるだろう。

フォルケホイスコーレでは、多くの教員は専門学士課程（中期高等教育）である教員養成大学を修了、または総合大学（長期高等教育）において何らかの学問について修了しているという背景を持っている。訓練に関しては、フォルケホイスコーレで働く教員を対象としてフォルケホイスコーレ教育コースも設置している。

自由職業学校は、元々全寮制の家政学校から発展した学校であり、そのため教員養成大学修了または家政に関する実務的な教育経験がある教員が多い。自由職業学校では自前の教員訓練プログラムは持たず、フォルケホイスコーレやエフタスコーレ、生産学校等のプログラムに参加している。この点からも、各学校群は共通した教育の特徴や文化を持っていることが伺える。

イブニングスクールでは、教員養成大学または総合大学を修了しているか、その科目、分野の職業訓練学校、または実務経験がある教員が多い。また「教育デイ」という各イブニングスクールの教員らが集まり、互いの実践に関する方法等を意見交換する機会も年に数回ある。

大学拡張コースでは、教員は総合大学の教員や研究者であるため、特に大学拡張コース特有の訓練コースは設置していない。

生産学校に関しては、その分野に関する職業訓練学校を修了している教員と共に、10%程度はそういった学歴は持たずに独学で学び生産学校の教員になっている者もいる。なお、生産学校の参加者が後に生産学校の教員となっ

表3 自由成人教育関連機関における教員の学歴及び訓練コースの内容

学校名	実際の教員の学歴、背景	初期教育コースの有無
フォルケホイスコーレ(Folkehøjskole)	教員養成大学または長期総合大学	1年間のフォルケホイスコーレ教育コース
自由職業学校(Frihøjsskole)	教員養成大学または実務的な家政教育経験	自前では設置しておらず、フォルケホイスコーレ、生産学校やエフタスコーレのコースを活用
イブニングスクール(Aftenskole)	教員養成大学、長期総合大学、職業訓練学校またはアート、芸術分野での職業経験等	特別なテーマ、トピックに関するもの(職業・専門的)を過時。また各学校での教育実践への意見交換を行う機会
大学拡張コース(Folkeuniversitet)	長期総合大学、准教授以上	特に無し
生産学校(Produktionsskoler)	独学(10%)、職業訓練学校または長期総合大学	導入コースまた基礎的な教育学、教員養成大学と提携したコース
デイホイスコーレ(Daghøjskoler)	長期総合大学(1/3)、教員養成大学(1/3)、またはアート、芸術分野での経験者	プロジェクト、ジョブトレーニング、各学校での教育実践への意見交換を行う機械
エフタスコーレ(Efterskoler)	教員養成大学	新規採用教員用コース、第二外国語としてのデンマーク語コース

出典:Den ikke-formelle voksenuddanner BAEA workshop kbh.17.9.2010の資料を基に筆者作成。

ている例もある。生産学校では、生産学校の理念や方法等基礎的な知識を学習する訓練プログラムを設置している。近年では新たに生産学校を設置する場合には、その教員らは皆それらのプログラムを受ける傾向があるという。また教員養成大学と提携した特別なプログラムも提供されている。

デイホイスコーレは、総合大学または教員養成大学を修了している教員がそれぞれ3分の1を占め、残りは主にアート、芸術分野で働いてきた人々が教員となっている。特に若者を対象としたアート、芸術系のデイホイスコーレはこの傾向がある。移民の女性への学習支援や、精神的にに疾病のある人々を支援するデイホイスコーレでは、総合大学で関連分野を修了してきている教員が多い。

エフタスコーレでは、教員養成大学を修了した教員が採用されている。エフタスコーレ協会は、新規の教員を対象にエフタスコーレに関する基本的な知識を学ぶプログラムを提供している。

なお、フォルケホイスコーレ、生産学校やエフタスコーレの提供する各訓練プログラムへの参加は義務ではなく、各学校や教員が必要な時に参加するという形式になっている。

以上のように、主にワークショップの結果をまとめた資料によれば、多く

の自由成人教育の各学校群も、実際に採用にあたって学歴等に要件や傾向があることが明らかになった。そして各学校群は、訓練プログラムを設置している。但し、それらは義務的なものではなく、あくまで各学校や教員が必要な時に申し込む形式であることが明らかになった。

おわりに

本稿では、デンマークの主に自由成人教育における成人教育者の質の保障と、力量形成の方法を明らかにすることを目的とし、各学校群での成人教育者の教員数とその正規・非正規の割合、採用にあたっての条件の有無、どのような学歴、背景を持っているのか、そして各学校群がどのような訓練プログラムを設置しているのかを明らかにしてきた。またその前提知識として、先行研究や各種政府資料を参考にしながら、デンマークの成人教育制度や各学校群の概要、そして成人職業訓練と普通成人教育分野の成人教育者の訓練についても考察してきた。

考察の結果、自由成人教育においては、制度的には一切の学歴や資格等は採用に関する条件ではないものの、実際の採用においては、生産学校やデイホイスコーレの一部の教員らを除き、一定以上の学歴や専門性が要求されている学校群が多いことが明らかになった。また各学校群の多くが自前の訓練プログラムを設置していることも明らかになった。

但し、本研究ではあくまで全体像の把握に留まっており、各学校群における訓練プログラムの目的や内容といった詳細について今後明らかにする必要がある。特に、ワークショップの結果として示された内容について、より実証的に研究していく必要がある。また、各学校群において、教育実践の特徴は何と認識しているのか。そして教員の採用にあたって重視している不可欠な要素、資質は何なのか、またどのように教員らは日々の実践の中で省察し、力量を形成また向上させているのかといった点に関しても明らかにする必要がある、今後の課題としたい。

注

- (1) 澤野由紀子「EU の生涯学習政策とガイドライン」日本生涯教育学会編『日本生涯教育学会年報』第31号、2010年、pp. 167-186.
- (2) European Commission (2007). Communication from the Commission to the Council and the European Parliament: Improving the quality of teacher education. Brussels: Author.

- (3) Milana, M.& Larson, A, "Professionalisation Processes among Adult educators A comparative investigation of three Nordic-Baltic countries, "Adult Learning teacher as learners, (København: Danmarks Pædagogiske Universitetskole, 2011), pp. 13-14.
- (4) 阪本陽子, 宮地孝宜「公民館等の社会教育施設における指導系職員が持つべき社会教育に関する専門的名知識・技術(試案)」日本生涯教育学会生涯学習振興ガイドラインモデル開発検討委員会『生涯学習振興ガイドラインモデルに関する研究』2012年, p. 68.
- (5) 阪本陽子, 宮地孝宜, 上掲, p. 68.
- (6) 欧州生涯学習指数(ELLI)の結果はこちらで公開されている。(http://www.elli.org/)
- (7) 澤野由紀子「国際的動向—EUの生涯学習政策とガイドラインを中心に」日本生涯教育学会生涯学習振興ガイドラインモデル開発検討委員会『生涯学習振興ガイドラインモデルに関する研究』2012年, pp. 19-22.
- (8) 欧州委員会(European Commission)のEurostatより2013年8月18日取得。(http://appsso.eurostat.ec.europa.eu/nui/show.do?dataset=tmg_lfse_04&lang=en)
- (9) 2008年の調査でも25歳から63歳の労働人口の30.2%が過去4週間に何らかの成人教育に参加している。
- (10) Wiborg, S., & Korsgaard, O, "Grundtvig : The key to Danish education," *scandinavian Journal of Educational research*, 50(3)(2006), pp. 361-382.
- (11) フォルケホイスクーレの他国への影響に関する研究は多数存在するが, 例えば Arne Carlsen (1998) *Grundtvig & Europe* や Jindra kulich (2002) *Grundtvig's educational ideas in central and eastern europe and baltic states*, 他には Lilian Zöllner (1997) *Grundtvig skoletanker i USA, argentina og chile* また(1994) *Grundtvig's educational idea in japan, the Philippines and Israel* 等が挙げられるだろう。
- (12) 宇野豪『国民高等学校運動の研究——一つの近代日本農村青年教育運動史』溪水社, 2003年。
- (13) 寺中作雄『公民館の建設—新しい町村の文化施設』公民館協会, 1946年, p. 9など。
- (14) グルントヴィンセンター (http://grundtvigcenter.au.dk/) 及びグルントヴィン図書館 (http://www.grundtvig.dk/bibliotek.html) は関連機関と共に市庁舎近くに集約されている。
- (15) EUの生涯学習プログラムの成人教育分野 GRUNDTVIG に関して2013年8月18日取得 (http://ec.europa.eu/education/lifelong-learning-programme/grundtvig_en.htm)
- (16) Danneskiold, Samsøe, S., *Kortlægning af almenpædagogiske lærerkravificeringsforløb*. (Copenhagen: Danish Ministry of Education & the Research Center for Adult Education, 1999).
- (17) Milana, M, *Initial education and training pathways for Danish adult educators*, (Conference paper, 2008) (http://pure.au.dk/portal/files/286/Milana-Marcella-ASEMworkshopD_paper.pdf)
- (18) Milana, M. & Larson, A, (2009) *Becoming Adult educators in the Nordic-Baltic region national Report: Denmark*, (http://pure.au.dk/portal/files/469/2330.pdf)
- (19) Milana M & Larson A (2011) *Professionalisation Processes among Adult Educators: A comparative investigation of three Nordic-Baltic countries* (http://www.dpu.dk/fileadmin/www.dpu.dk/institutfordidaktik/cursivskriftserie/Cursiv_6.pdf)
- (20) Milana M & Larson A., (2009), *op.cit.*, pp. 5-36.
- (21) Ibid.
- (22) Ibid.
- (23) Steen, Elsborg, & Steen, Høyrup, Pedersen, *Breaking social patterns through the learning environments of the non-formal adult education*, (København: Danish Adult education Association, 2010), pp. 3-11. なお, 以下に12の要素を示すと,
「参加者は潜在的資源と才能に満ちているという認識」という枠内に①新しい出発という参加者の自己認識, ②信頼と喜びに満ちた雰囲気や学習環境, ③参加に対する抵抗感の受容, ④参加者の関心と資源へ焦点化した認識。「行動への活力を生み出す社会環境」の枠内に⑤新しいコミュニティへの接続, ⑥社会的な文脈の中での行動を通じた学習。「柔軟性があり, 対象に応じた教育プログラム」の枠内に⑦学習者が動機づけられた際の適切な指導, ⑧高度な技能を伴った指導, ⑨自己洞察と新しい選択肢へ焦点化した助言。「指導と助言の相互関係性」の枠内に⑩参加者と教員スタッフの協力関係, ⑪他者へ働きかける意欲を持った教員, ⑫他者の変容への教育的省察を持った教員という要素が明らかにされている。
- (24) デンマーク教育省ウェブサイトより2013年8月18日取得。

- (http://eng.uvm.dk/Fact-Sheets/Adult-education-and-continuing-training/~media/UVM/Filer/English/PDF/Fact%20sheets/101221_Adult_vocational_training.ashx)
- (25) Danish Adult Education Association (2013) *169 years of Danish Adult education: A complex pattern*, 2013年3月にデンマーク成人教育協会取得した資料より。
- (26) Milana, M., (2008), *op.cit.*, p.3.
- (27) Milana, M. & Larson, A., (2009), *op.cit.*, pp.9-10.
- (28) Søren Ehlers (2006) "The Decline and Fall of Folkeoplysning and Adult education": Nordic policy-Making during the Transition from Adult education to Adult Learning". pp.339-354.
- (29) Danish Adult Education Association (2013) *169 years of Danish Adult education: A complex pattern*, 2013年3月にデンマーク成人教育協会取得した資料より。
- (30) Ibid.
- (31) Ibid.
- (32) Ibid.
- (33) デンマーク教育省ウェブサイトより2013年8月18日取得。
(<http://eng.uvm.dk/Fact-Sheets/Adult-education-and-continuing-training/>)
- (34) European Association for the education of Adults (2011) Country Report on Adult education in Denmark (<http://www.eaea.org/doc/pub/Country-Report-on-Adult-Education-in-Denmark.pdf>), p7.
- (35) 各学校の参加者数は Danish ministry of Education (2008). *The Development and state of the art of adult learning and education national report of Denmark* (http://www.unesco.org/fileadmin/MULTIMEDIA/INSTITUTES/UII/confinitea/pdf/National_Reports/Europe%20-%20North%20America/Denmark.pdf) 内の pp. 10-11の数値から引用。
- (36) European Association for the education of Adults (2011), *op.cit.*, p.7.
- (37) Country Report on the Action Plan on Adult learning: Denmark (2011)
(http://ec.europa.eu/education/adult/doc/denmark_en.pdf), pp.11-12.
- (38) Ibid
- (39) Milana, M., (2008), *op.cit.*, p.7.
- (40) Milana, M., (2008), *op.cit.*, pp.7-8.
- (41) 自由成人教育では、公的な助成を受けながらも、カリキュラムにおいて高い自由が保障されている。また、コース修了時に記念の参加証は発行されることがあるものの、公的に資格証明は原則的には発行されない特徴がある。
- (42) Milana, M., Bernt Sørensen, T., "Promoting democratic citizenship through non-formal adult education: The case of Denmark". *Scandinavian Journal of educational research*, 53(4)(2009), pp.348-349.
- (43) Hal Koch 自身も民主主義やシチズンシップを強調したフォルケホイスコーレを1946年に設立し Krogerup folkehøjskole として現在まで続いている。
- (44) Korsgaard, O. *Kampen omlyst*. (Copenhagen: Gyldendal, 1997) において、フォルケホイスコーレの歴史的な変遷及び1960年代の学生らの反乱がフォルケホイスコーレの指導方法や教員と学生の関係性に与えた影響が詳しく記載されている。これは『光を求めてーデンマークの成人教育500年の歴史』として東海大学出版会より1999年に翻訳出版されている。
- (45) フォルケホイスコーレ協会のホームページより。(<http://www.fld.dk/>)
- (46) 教育省発行資料より2013年5月30日取得。
(http://eng.uvm.dk/Fact-Sheets/Adult-education-and-continuing-training/~media/UVM/Filer/English/PDF/Fact%20sheets/101221_Nonformal_adult_education.ashx)
- (47) Milana, M. & Larson, A. (2009), *op.cit.*, p.36.
- (48) Milana, M. & Larson, A. (2009), *op.cit.*, pp.29-30.
- (49) Ibid.
- (50) Milana, M. & Larson, A. (2009), *op.cit.*, pp.31-32.
- (51) ワークショップでの協力者の内訳は、フォルケホイスコーレ1名、自由職業学校1名、イブニングスクール5名、大学拡張コース1名、デイホイスコーレ1名、エフタスコレ2名であった。但し各々がその学校群での中心的な存在の人物であり状況を認識しており、人数は少ないものの結果に関しては問題ないというのがデンマーク成人教育協会の見解である。
- (52) 筆者は2013年6月半ばにコペンハーゲン市内の青年学校3校へのインタビューを実施している。